

＜キウイフルーツ＞ キウヒメヨコバイ

1. 5月～9月に防除を行う。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アグロスリン乳剤	I:3A	収穫7日前まで	3回以内	散布
サンマイト水和剤	I:21A	収穫14日前まで	1回	散布
パダンSG水溶剤	I:14/F:U19(U)	収穫30日前まで	3回以内	散布

＜キウイフルーツ＞ カイガラムシ類

1. 日光の入らない園で増えやすいので整枝剪定を行う。  
2. 散布むらのないよう枝幹部に丁寧に散布する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
コルト顆粒水和剤	I:9B	収穫前日まで	3回以内	散布
スプレーオイル	I:UNM/F:NC	発芽前	-	散布
トモノールS	I:UNM/F:NC	発芽前	-	散布
モスピラン顆粒水溶剤	I:4A	収穫7日前まで	3回以内	散布

＜キウイフルーツ＞ カイガラムシ類幼虫

1. 日光の入らない園で増えやすいので整枝剪定を行う。  
2. 散布むらのないよう枝幹部に丁寧に散布する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アブロード水和剤	I:16	収穫前日まで	2回以内	散布

＜キウイフルーツ＞ カメムシ類

1. 年次により発生時期、発生量の変動が大きいので、発生予察情報に注意する。  
2. 越冬成虫が多い年は5月下旬～7月下旬の発生に注意する。  
3. スギ・ヒノキの着果量が多い年は、新成虫の発生が多くなるので、8月～9月に防除を行う。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アグロスリン乳剤	I:3A	収穫7日前まで	3回以内	散布
アディオソ乳剤	I:3A	収穫7日前まで	5回以内	散布
アドマイヤーフロアブル	I:4A	収穫前日まで(但し、露地栽培については発芽期から開花期を除く)	2回以内	散布
アルバリン顆粒水溶剤	I:4A	収穫前日まで	3回以内	散布
スタークル顆粒水溶剤	I:4A	収穫前日まで	3回以内	散布

＜キウイフルーツ＞ キロマイコガ

1. 落弁期～幼果期に、果梗部及び果実と果実の接触部にいるので注意して散布する。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アグロスリン乳剤	I:3A	収穫7日前まで	3回以内	散布
アディオソ乳剤	I:3A	収穫7日前まで	5回以内	散布
スカウトフロアブル	I:3A	収穫前日まで	5回以内	散布
パダンSG水溶剤	I:14/F:U19(U)	収穫30日前まで	3回以内	散布
フェニックスフロアブル	I:28	収穫7日前まで	3回以内	散布
マブリック水和剤20	I:3A	収穫7日前まで	2回以内	散布

＜キウイフルーツ＞ かいよう病

1. 風による付傷部から感染するので防風垣を整備する。  
2. 冬期に低温障害を受けやすい園地での栽培を避ける。  
3. せん定器具はこまめに70%エタノールで消毒し、器具によるかいよう病の感染を防ぐ。  
4. 常発地帯ではせん定直後から発芽前までに2～3回散布する。  
5. 発芽直前、及び発芽後の銅剤の単用散布は葉害を生ずるので避ける。  
6. 4月中旬（花柄伸長開始後）以降は使用する薬剤によっては葉害を生ずるので、コサイド3000を使用する。  
7. 6月になっても気温が上がらない年は、梅雨期にも防除を行う。  
8. 樹幹注入は、枝幹部でかいよう病の発病が認められ、発病枝のせん除等が困難な場合に行う。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ICボルドー66D	F:M01(M)	収穫後～発芽前	-	散布
エコショット	F:BM02(BM)	収穫前日まで	-	散布
カスミンボルドー	F:24(D3)・F:M01(M)	発芽後叢生期(新梢長約10cm)まで	4回以内	散布
カスミンボルドー	F:24(D3)・F:M01(M)	休眠期	4回以内	散布
カスミン液剤	F:24(D3)	収穫90日前まで	4回以内	散布
カップーシン水和剤	F:24(D3)・F:M01(M)	発芽後叢生期(新梢長約10cm)まで	4回以内	散布
カップーシン水和剤	F:24(D3)・F:M01(M)	休眠期	4回以内	散布
コサイド3000	F:M01(M)	収穫後～果実肥大期	-	散布
アグレプト液剤	F:25(D4)	収穫後～落葉前まで	1回	樹幹注入
カスミン液剤	F:24(D3)	収穫後～落葉前まで	1回	樹幹注入

＜キウイフルーツ＞ 果実軟腐病

1. 病原菌は果梗及び枯枝内で越冬するので、果梗は除去し、せん除した枝等は集めて土中に埋没する。  
2. 日照不足のほか通風の悪い過湿条件下で多発するので整枝せん定に重点を置いた基本的な栽培管理に努める。  
3. フロンサイドSCは散布後7日間はほ場への再入園を避ける。  
4. ベノミル含有剤あるいはチオファネートメチル含有剤を用いる場合はどちらか1剤のみを使用すること。但し、種子への処理、種粒への処理及び塗抹処理は除く。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ダコニール1000	F:M05(M)	収穫60日前まで	7回以内	散布
トップジンM水和剤	F:1(B1)	収穫前日まで	5回以内	散布
フロンサイドSC	F:29(C5)	収穫30日前まで	1回	散布

ベルコート水和剤	F:M07(M)	収穫前日まで	5回以内	散布
ベンレート水和剤	F:1(B1)	収穫7日前まで	5回以内	散布
ロブラール水和剤	F:2(E3)	収穫前日まで	4回以内	散布

#### <キウイフルーツ> 貯蔵病害(灰色かび病)

1. 本病は、通風、採光の不良な園に発生が多いので整枝せんに定に努める。
2. 収穫1週間前に薬剤を散布する。
3. 茶園に隣接する園では茶の萌芽から収穫までの期間はスミブレンドの使用を控える。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ストロビードライフロアブル	F:11(C3)	収穫前日まで	3回以内	散布
スミブレンド水和剤	F:10(B2)・F:2(E3)	収穫前日まで	4回以内	散布
ベルコート水和剤	F:M07(M)	収穫前日まで	5回以内	散布
ロブラール水和剤	F:2(E3)	収穫前日まで	4回以内	散布

#### <キウイフルーツ> 灰色かび病

1. 本病は、通風、採光の不良な園に発生が多いので整枝せんに定に努める。
2. 袋をかける場合は、薬剤散布をしてからかける。
3. フロンサイドSCの散布後7日間はほ場への入園を避ける。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
ストロビードライフロアブル	F:11(C3)	収穫前日まで	3回以内	散布
フロンサイドSC	F:29(C5)	収穫30日前まで	1回	散布
ベルコート水和剤	F:M07(M)	収穫前日まで	5回以内	散布
ロブラール水和剤	F:2(E3)	開花期～落花期	4回以内	散布

#### <キウイフルーツ> 花腐細菌病

1. 環状剥皮の方法については耕種的防除法の項を参照。
2. がく割れ10日前～開花10日前が薬剤防除適期である。
3. がく割れ開始後、冷涼で降雨が多いと開花までの日数が長くなり発病し易い。
4. 同一薬剤を連用すると耐性菌が発生し易くなるので異なる薬剤を交互に用いる。
5. 排水対策を行い過湿を防ぐとともに、通風、採光をはかる。
6. 茶園に隣接する園では茶の萌芽から収穫までの期間はアグリマイシン、アグレプト、マイシンの使用を控える。

商品名	RACコード	時期	回数	使用方法
アグリマイシン-100	F:25(D4)・F:41(D5)	落花期まで	3回以内	散布
アグレプト水和剤	F:25(D4)	収穫90日前まで	4回以内	散布
カスミンボルドー	F:24(D3)・F:M01(M)	発芽後叢生期(新梢長約10cm)まで	4回以内	散布
カスミンボルドー	F:24(D3)・F:M01(M)	休眠期	4回以内	散布
カスミン液剤	F:24(D3)	収穫90日前まで	4回以内	散布
カップーシン水和剤	F:24(D3)・F:M01(M)	発芽後叢生期(新梢長約10cm)まで	4回以内	散布
カップーシン水和剤	F:24(D3)・F:M01(M)	休眠期	4回以内	散布
コサイド3000	F:M01(M)	休眠期～叢生期(新梢長約10cm)	-	散布
マイシン20水和剤	F:25(D4)	収穫90日前まで	4回以内	散布